

## 「SEND プログラム 2015 年 シドニー大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学文学部 4 年 折原琴和

## ①学習成果

私は 2 年前の同じ時期にハワイ大学のスプリングスクールプログラムに参加しました。当時は自分が話した初歩的な英語が相手に伝わっていることが新鮮で嬉しく思い、試験や教科のひとつであった英語が実際の言語であることを体感することができました。しかし今回は英語の多様性について気づかされました。シドニーではオーストラリアで生まれ育った人達だけではなく、自分の母国は違う国でシドニーには留学に来ている人や、両親や祖父母の時代に移民してきた人など、多様なバックグラウンドを持つ人たちと出会いました。日本とは違うシドニーのコスモポリタンな雰囲気は新鮮であり、興味深いものでした。また、それに伴い多様な英語が使われていました。そもそもオーストラリアはアメリカ英語ではなくイギリス英語に近く、自分には馴染みのない発音でしたが、それに加えて、それぞれのバックグラウンドごとのアクセントが加わった様々な英語と出会いました。このような実用的な英語と触れることで、英語が世界共通語であることをより強く実感しました。また、今後英語を世界の人たちとコミュニケーションをとる道具として活用していくためには、英語の多様さを知ったうえで鍛えていくことが必要だと感じました。

## ②海外での経験

今回のプログラムでは、バディとしてシドニー大学の学生何人かが私たちの面倒を色々と見てくれました。私にとって現地の学生と実際に交流して仲良くなることは案外難しいことなのですが、今回のバディの方々は皆本当に友好的で、授業以外でも昼ごはんや夜ご飯を食べに行ったり、お酒を飲みに行ったりと facebook 等の SNS で友達になるだけでなく、ちゃんと対面的な交流をすることができました。国が違っても一緒に楽しむことはでき、人間の核の部分は変わらないのだと再認識しました。

## ③プログラム内容

プログラム内容は主に 5 つのパートで構成されていました。

## 1. 英語の授業

話すことに重点を置いたワークを行いました。ワークのテーマはオーストラリアの歴史やアボリジニといったオーストラリアに関するものであり、オーストラリアへの理解を深めることができました。また、最後の英語授業時に日本とオーストラリアの比較に関するスライド発表とレポート提出が求められました。

## 2. 日本文化交流

日本で各グループ事前にテーマを決め準備していたものを発表しました。当日は 20~30 人程度の日本に興味のある現地学生の方々が来て下さり、発表を楽しんでくれました。発表後にはいたるところで会話の輪が生まれ、新たな交流がたくさん生まれました。

## 3. 英語講義 (グローバルマネジメント・グローバルリーダーシップ等)

シドニー大学の先生方、また現地で会社運営をされている方の講義を受けました。どの講師の方々も分かりやすいように内容が工夫されており、興味深くお話を聞くことができました。

## 4. 課外授業 (企業訪問・ファーム訪問・ライフセービング講習)

大学外で行われた授業です。企業訪問では国際交流基金を訪ね、オーストラリアでの日本語の立ち位置や、日本文化を広めるための活動に関するお話を聞きました。ファーム訪問ではファームを歩きながらオーストラリアの農業についての解説を聞きました。カンガルーやコアラ等のオーストラリア特有の動物を観察する機会もありました。

## 5. 日本語授業への参加

シドニー大学の日本語授業へお邪魔し、現地の学生と一緒に授業を受け、練習問題を一緒に行いました。

## ④進路への影響について

私は 4 年生であり、就職活動を終えているので、ファーストキャリアの会社に変更はありません。今までは今後の働く場所として海外を視野に入れていただけでした。シドニーでは、5 時・6 時あたりには仕事を終え皆帰宅していたり、転職を複数回行うことが当たり前だったり、日本と異なる働き方を見聞きしました。もちろん国の現状等を踏まえると安易な比較はできないですが、日本の働き方が全てではなく、日本以外の働き方も参考にし、これからの人生を歩んでいきたいと思いました。